

【プロジェクト概要】

公共下水道終末処理場から発生する汚泥を脱水・造粒乾燥、あるいは炭化させて固形燃料を生成し、石炭ボイラーや石炭火力発電所等の燃焼施設の補助燃料として利用することで、化石燃料の燃焼に伴う温室効果ガスの排出量を削減する。また、プロジェクトが実施されなければ埋立処分された下水汚泥から発生していたメタンの大気放出を回避する。

【プロジェクトの適格性基準】

- 条件1. バイオマス固形燃料の原料は、未利用あるいは消化ガス回収ののち未利用な下水汚泥のいずれかであること
- 条件2. バイオマス固形燃料は、炭化固形燃料か乾燥固形燃料のいずれかであること
- 条件3. 代替の対象となる燃焼施設の燃料は、化石燃料であること
- 条件4. プロジェクトの採算性がない、又は他の選択肢と比べて採算性が低いこと

排出削減量の算定で考慮する範囲

<下水汚泥の収集>

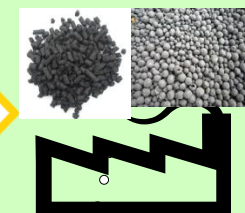


未利用あるいは消化ガス回収ののち未利用の下水汚泥

<下水汚泥の運搬>



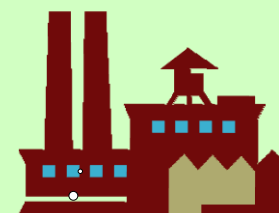
※①



※②



※③



※④

<バイオマス固形燃料の運搬>

<ボイラー等での利用>

※【排出削減量算定のために必要なモニタリング項目】

- ①下水汚泥の運搬に伴う排出（運搬車両の軽油等消費量又は平均燃費・走行距離） ※県内の運搬に伴う排出は算定対象外としてよい。
- ②下水汚泥の乾燥／炭化燃料化処理に伴う排出（乾燥・炭化行程で使用される化石燃料・電力等消費量）
- ③バイオマス固形燃料の運搬に伴う排出（①と同様）
- ④代替される化石燃料の燃焼に伴う排出（ボイラーで消費されたバイオマス固形燃料の重量・含水率・単位発熱量）
- ④ボイラー等の燃焼施設で消費されたバイオマス固形燃料の重量・含水率・単位発熱量